

唐津焼十二人展

―唐津の本質に帰る―

令和2年2月14日(金)〜20日(木)

柿谷ギャラリー
KAKIYEN GALLERY

「唐津焼十二人展 一唐津の本質に帰る」に寄せて

私がプロデュースする柿傳ギャラリーでの唐津焼作家展も、今回で第6回を迎えます。「グループ展でなければ出来ないことをしよう」という呼び掛けではじまりました。この展覧会の特徴は、参加者が共通のテーマで作品を制作することで、第6回展のテーマは「唐津の本質に帰る」です。空海の「還源^{げんげん}」という言葉に触発されて、源に還る、本源に還るという話から、「唐津の本質とはなにか」ということを作家たちに問いかけてみました。答えは一つではないので、どんな結果が出るのか楽しみです。

また、展覧会に併せて作家による特別記念茶会「カラツ」を柿傳の茶室にて催します。今回の席主は、田中佐次郎さんです。佐次郎さんは、風流・芸術という面では書・漢詩・南画・茶の湯・茶花を深く学ばれており、人間形成という面では禅寺に参禅し在家得度を受けておられます。そういう意味では、広く芸道を極められた碩学の人です。どんな茶会になるのか、こちらも楽しみです。

岡本作礼さんの作域は、唐津焼を中心に、我が国の彩文土器から中国の鈎窯^{こう}までじつに幅広い。今回の「釉裏紅草花文面取花器」は、唐津の源流を朝鮮半島のやきものに求めたものです。面取りの白磁に釉裏紅で、日本人が大好きな秋草文が描かれています。

梶原靖元さんの「唐津志野茶碗」は、斬新なデザインがとても魅力的です。白い釉薬の下には、鉄絵の太い線が文様化されて、器の内外に描かれています。唐津の土で志野風の作品に挑戦された、梶原さんならではの創作世界です。

川上清美さんは「美濃の美と李朝の美が融合しているのが唐津だ」といいます。今回の「黒唐津茶碗」は、唐津にはない剝^{くりぬき}貫技法で成形した六角形の引出し黒茶碗です。釉薬を大胆に掛け残した火間^{ひま}は、余白の美を追求する川上さんの美学です。

竹花正弘さんの作品は、砂岩^{さがん}による「白唐津ぐい呑」です。やや楕円形に歪んだ口づくりに、茶入を思わせるような一筋の釉流れがなんともいえない景色を醸し出しています。高台の碁筈底と土味も良好。食器の域を超えた、とても上品な仕上がりとなっています。

田中佐次郎さんは、伝統的な唐津焼の枠を超えた独自の唐津を追求しておられます。「斑唐津茶碗」の見込みを覗いて見て下さい。佐次郎さんの深い世界が見えてきます。これを言葉で説明するのは難しいのですが、佐次郎さんはやきものに思想を託しておられます。

中里太亀さんの「斑唐津水指」は、穏やかな膨らみを見せる水指です。ここには、太亀さんの温かい人柄が滲み出ています。轆轤目に沿って斑釉が掛かり、その斑釉に灰が降って独特の文様を醸し出しています。唐津の基本である、使って喜ばれる作品です。

十四代 中里太郎右衛門さんが、はじめて手びねり作品に挑戦されました。この「斑唐津手びねりぐい呑」には、太郎右衛門さんの遊び心が感じられます。側面は八角形に面取りされ、見込には灰が降って、味わい深い風情を醸し出しています。

濱崎節生さんは、唐津の土で陶人形や造形作品を制作しておられます。この「朝鮮唐津面取花器」にも、濱崎さんの持つ造形性が感じられます。黒飴釉の上に藁灰釉を掛け、荒々しい土肌に黒飴釉が流れて、この作品に強い空気感を生み出しています。

藤ノ木土平さんの「唐津茶盃」は、20年間お茶の先生が育ててくださった茶碗です。恐らく、そこに土平さんの茶碗づくりの還源があるのでしょう。井戸風の外面には長石釉が流れ、内面の口廻りには梅華皮の景色が見られます。使うことによって育てるという、日本人特有の美の世界です。

安永頼山さんは、田中佐次郎さんのお弟子さんです。「絵唐津花入」は口縁の一部が破れ、左右非対称の独特な造形を成しています。その破格の造形と白い長石釉に鉄分が噴き出た釉肌がうまく融合して、独自の美を醸し出しています。この人でない出来ない造形美です。

矢野直人さんの「唐津茶碗」は、腰が丸く、歪みのない端正な熊川^{こまがわ}風の茶碗です。胎土と木灰を交ぜて、薄く透明釉が掛けられています。唐津らしさを求めた作風で、癖のない素直な作振りに、この作家の真摯な作陶姿勢が感じられます。

吉野敬子さんは、樋ノ谷^{はぎ}の二種類の砂岩を砕いて陶土にしています。一口に斑といっても、地域によって微妙に異なります。「樋ノ谷斑盃」と「樋ノ谷三島筒盃」は、樋ノ谷でないと生まれない唐津です。彼女は、自然に感謝しながら作陶されています。

本展覧会について

会 期 令和2年2月14日(金)～20日(木)
会期中無休

開 廊 時 間 11:00 ～ 19:00
※ 最終日の20日(木)は17:00 まで

出 品 作 家 岡本作礼 (2月14日～16日)
(在廊予定日) 梶原靖元 (2月14日～16日)
川上清美
竹花正弘 (2月16日)
田中佐次郎 (2月14日～16日)
中里太亀
十四代 中里太郎右衛門 (2月15日～16日)
濱崎節生
藤ノ木土平 (2月19日～20日)
安永頼山 (2月15日～16日)
矢野直人 (2月14日～16日)
吉野敬子 (2月14日～16日)

会 場 柿傳ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

〒160-0022 東京都新宿区新宿 3-37-11 安与ビル地下2階
TEL 03-3352-5118 / FAX 03-5269-0335
MAIL gallery@kakiden.com
http://www.kakiden.com/gallery



特別記念茶会「カラツ」

柿傳ギャラリーの上にある茶室にて、特別記念茶会「カラツ」を開催致します。
席主は出品作家の一人である田中佐次郎氏が務めます。

茶会に参加された事のない初心の方も大歓迎ですので、どうぞお気軽に、唐津ゆかりのお道具で、一服の茶をお楽しみ頂ければ幸いです。

・ 日 時 2月16日(日) 11:00 と 13:00 席入の二席

・ 席 主 田中佐次郎 氏

・ 場 所 新宿 京懷石 柿傳 (東京都新宿区新宿 3-37-11 安与ビル)
薄茶席「残月(9階)」、点心席「古今サロン(6階)」、
受付・寄付「安与ホール(7階)」
※ 席入 15 分前までにお集まりください。

・ 会 費 5,000 円(税込)

・ 服 装 ご自由にどうぞ

・ 申 込 ご希望の方は、柿傳ギャラリーHPの茶会お申込ページにご登録頂く
か、柿傳ギャラリーまで電話、FAX、メールにてお申し込み頂ければ
と存じます。

・ 〆 切 2月14日(金)までとさせていただきます。
皆様のお申込を心よりお待ち申し上げます。

[ご連絡先]

TEL 03-3352-5118 / FAX 03-5269-0335

e-mail gallery@kakiden.com

電話は 11 時～ 19 時受付 (ギャラリー休廊日を除きます)



岡本作礼

Sakurei Okamoto

昭和33年 佐賀県唐津市に生まれる
 昭和53年 中里重利氏に師事
 平成元年 現在地に工房設立
 平成11年 能登島ガラス工房にてパート・ド・ヴェールを習得
 他、個展多数
 現在、佐賀大学非常勤講師、佐賀県陶芸協会 会員

釉裏紅草花文面取花器
 φ13.4×H21.0cm



梶原靖元

Yasumoto Kajihara

昭和37年 佐賀県伊万里市南波多に生まれる
 昭和55年 有田工業高等学校 デザイン科卒
 唐津焼窯元 太閤三ノ丸窯に弟子入
 平成元年 大丸北峰氏に師事し煎茶道具を習う
 平成15年 8月～11月 韓国にて海外研修
 平成17年 9月 NHK BS2「詫びの茶碗をよみがえらせた」放映
 平成19年 6月 NHK 教育「美の壺」出演

唐津志野茶碗
 φ11.2×H7.0cm

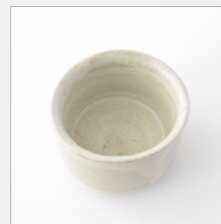


川上清美

Kiyomi Kawakami

昭和23年 長崎県対馬市に生まれる
昭和54年より 瀬戸、唐津、備前にて修業
昭和61年より 唐津・田中 佐次郎氏に師事
昭和63年 唐津市半田にて独立
平成2年より 各地百貨店、ギャラリーにて個展

黒唐津茶碗
φ12.4×H10.4 cm



竹花正弘

Masahiro Takehana

昭和49年 東京都に生まれる
平成12年 唐津のあや窯で三年間修行
平成15年 厳木町に割竹式登窯を築く
平成16年 初窯焚き
以降、各地で個展やグループ展を行う

白唐津ぐい呑
W6.6×D5.9×H5.0 cm

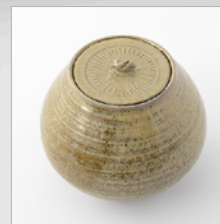


田中佐次郎

Sajiro Tanaka

昭和12年 福岡県に生まれる
昭和40年 縄文・弥生土器を研究、手びねりを始める
昭和46年 肥前唐津古窯址を発掘調査、作陶活動を開始する
昭和50年 唐津に登窯を築窯する
平成16年 韓国に登窯を築窯
平成20年 韓国ソウルロッテ百貨店にて個展
平成26年 スイス・ジュネーブにて個展
平成28年 ニューヨークにて石黒宗唐二人展

斑唐津茶碗
W13.2×D12.6×H8.5 cm

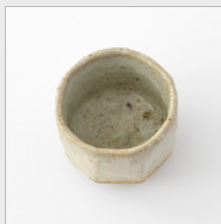


中里太亀

Taki Nakazato

昭和40年 佐賀県唐津市に生まれる
昭和63年 父・中里隆のもとでやきものを始める
平成5年 柿傳ギャラリーにて、中里隆・奥三十郎、三人展出品
平成6年 万葉洞みゆき店にて、父子展出品
平成7年 伊勢丹 新宿店にて初個展。以降、各地にて個展を開催
平成18年 新しく登り窯を設計、築窯
令和元年 万葉洞みゆき店にて、隆太窯 三代 中里隆・太亀・健太 作陶展を開催

斑唐津水指
W19.3×D19.3×H17.0 cm



十四代 中里太郎右衛門

Tarouemon Nakazato

昭和32年 十三代 中里太郎右衛門の長男として生まれる
 昭和59年 第16回日展にて叩き青唐津手付壺「貝緑」初入選
 平成14年 国際陶芸アカデミー（I・A・C）の会員となる 十四代 中里太郎右衛門を襲名する
 平成17年 第52回日本伝統工芸展にて「唐津井戸茶盃」入選 以後、平成25年まで7回入選
 平成18年 10月、天皇・皇后両陛下の佐賀県行幸啓に際し、国史跡に指定された唐人町御茶盃窯および工房の御視察賜り、御説明の榮譽を受ける。「叩き朝鮮唐津壺」佐賀県より両陛下へ献上
 平成19年 日本工芸会正会員となる
 平成22年 佐賀県陶芸協会の副会長に就任
 平成23年 唐津市政功労者表彰を受ける、紺綬褒章受章

斑唐津手びねりぐい呑
 W6.7×D6.6×H5.9cm

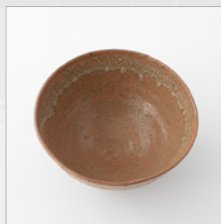


濱崎節生

Setsuo Hamasaki

昭和23年 熊本県に生まれる
 昭和40～42年 渡米 ネブラスカ州立大受講
 昭和44～55年 日本各地にて働きながら絵画、彫刻、陶芸を学ぶ
 昭和56年 佐賀・相知町にて開窯
 平成8年 日韓野外彫刻展出品（炎博）
 平成10年 韓日陶芸展出品（韓国）
 平成17年 ではいりする形展（熊本県立美術館）
 平成24年 福岡三越美術画廊にて個展
 各地にて個展、現在に至る

朝鮮唐津面取花器
 W11.0×D12.0×H20.0cm



藤ノ木土平

Dohei Fujinoki

昭和24年 新潟県に生まれる
昭和50年 唐津 大橋裕氏に師事
昭和53年 美濃 加藤芳右衛門に師事
昭和55年 佐賀県唐津市鎮西町に土平窯を開窯

唐津茶盃
φ15.0×H8.0cm



安永頼山

Raizan Yasunaga

昭和45年 島根県益田市に生まれる
平成13年 田中佐次郎氏に師事
平成15年 藤ノ木土平氏に師事
平成20年 現在地に登り窯を築窯
平成25年 田中佐次郎氏命名の「頼山」に改名
平成28年 京都野村美術館にて茶陶展開催
第63回 日本伝統工芸展 入選
平成29年 第34回 田部美術館大賞「茶の湯の造形展」入選
第7回 菊池ビエンナーレ 入選
令和元年 第25回 日本陶芸展 入選
現在形の陶芸 萩大賞展V 佳作
第8回 菊池ビエンナーレ 入選

絵唐津花入
W11.4×D11.4×H23.0cm

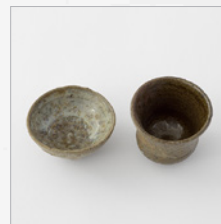


矢野直人

Naoto Yano

昭和 51 年 佐賀県唐津市に生まれる
平成 6 年 五年間アメリカ留学
平成 14 年 佐賀県立有田窯業大学校卒業
平成 15 年 佐賀県立有田窯業大学校嘱託講師
平成 16 年 自宅 殿山窯にて作陶始める
平成 20 年 韓国 蔚山にて六ヶ月作陶
平成 27 年 割竹式登窯 築窯

唐津茶碗
φ13.7×H7.5cm



吉野敬子

Keiko Yoshino

昭和 47 年 佐賀県伊万里市に生まれる
平成 8 年 父、吉野靖義の壺ノ谷窯にて修行
平成 15 年 有田窯業大学校でろくろの技術を学ぶ
平成 18 年 タイ、ベトナムにて現地の伝統技法を学ぶ
以降、各地で個展、グループ展などで作品を発表
平成 25 年 壺ノ谷窯窯主となる
令和 元年 新宿・柿傳ギャラリーにて個展

壺ノ谷斑盃 W8.5×D7.4×H4.0cm
壺ノ谷三島筒盃 φ7.0×H6.0cm

価格表

作家名	作品名	本体価格/円 (税込価格/円)	作品サイズ(cm)
岡本作礼	釉裏紅草花文面取花器	100,000 (110,000)	φ 13.4×H21.0
梶原靖元	唐津志野茶碗	70,000 (77,000)	φ 11.2×H7.0
川上清美	黒唐津茶碗	350,000 (385,000)	φ 12.4×H10.4
竹花正弘	白唐津ぐい呑	10,000 (11,000)	W6.6×D5.9×H5.0
田中佐次郎	斑唐津茶碗	727,273 (800,000)	W13.2×D12.6×H8.5
中里太亀	斑唐津水指	150,000 (165,000)	W19.3×D19.3×H17.0
十四代 中里太郎右衛門	斑唐津手びねりぐい呑	100,000 (110,000)	W6.7×D6.6×H5.9
濱崎節生	朝鮮唐津面取花器	80,000 (88,000)	W11.0×D12.0×H20.0
藤ノ木土平	唐津茶盃	170,000 (187,000)	φ 15.0×H8.0
安永頼山	絵唐津花入	120,000 (132,000)	W11.4×D11.4×H23.0
矢野直人	唐津茶碗	100,000 (110,000)	φ 13.7×H7.5
吉野敬子	樋ノ谷斑盃 樋ノ谷三島筒盃	各 13,000 (各 14,300)	W8.5×D7.4×H4.0 φ 7.0×H6.0

コラボレーション展「唐津 春の器展」のご案内

本展覧会のコラボレーション展として、渋谷の「GALERIE AZUR」さんで2月8日から「唐津 春の器展」が開催されます。

「GALERIE AZUR」さんは、再開発で活況を呈する渋谷の「セルリアンタワー東急ホテル」にある素敵なギャラリーです。

今回の「唐津 春の器展」でも魅力的な器がたくさん展観される事は間違いないでしょう。

是非、渋谷まで足をのばして頂ければ幸いです。

柿傳ギャラリー店主 安田尚史

唐津 春の器展

会期：令和2年2月8日(土)～16日(日)
11:00～18:00 (不定休)

会場：GALERIE AZUR
〒150-0031
東京都渋谷区桜丘町26-1
セルリアンタワー東急ホテル1F

企画：GALLERY一番館
Phone&Fax：03-6427-0029
e-mail：info@1bankan.com

新宿で大人の道草を。

柿傳ギャラリー
KAKIDEN GALLERY
<http://www.kakiden.com/gallery>



160-
0022

東京都新宿区新宿 3 | 37 | 11

柿
ガ
ヤ
リ
KAKI DEN GALLERY